

TAFE Queensland South Bank Campus 訪問

草苑保育専門学校 就職支援センター主任 専任講師 江川 栄一

1 はじめに

2019年9月5日午後、私立学校教員海外研修団は3件目の視察先である TAFE Queensland South Bank Campus（専門学校）を訪問した。

ブリスベン市サウスバンク地区は、1988年国際レジャー万博の会場として再開発された地域で、万博終了後は美術館や公園などに姿を変え、ブリスベン市民の憩いの場所になっている。その一角にある本校は、州内で最も大きな職業訓練専門学校で、大学への編入が可能なプログラムが多数あり、大学に並ぶ規模の充実した設備が整えられている。

今回の視察の目的は、海外研修のテーマである「ICT教育、アクティブラーニングの実践、キャリア・職業教育」の中でもキャリア・職業教育が TAFE においてどのように行われているのかを知ることであり、先進事例を研究することにより、私の勤務校を含む我が国の専門学校に活かしていくことにある。

2 学校概要

TAFE Queensland South Bank Campus では、同校の国際業務課マネージャーである Caroline Lewis 氏から学校の概要について画像を交えた説明をしていただいた。

TAFE とは Technical and Further Education の略で、オーストラリア各州で設置されている州立の職業専門学校である。

クイーンズランド州の職業訓練校の歴史は1882年誕生以来135年にも及び、現在 TAFE は州内6つの地区に50のキャンパスを有している。

そのうちブリスベン地区では、サウスバンク工科大学、ブリスベンノース TAFE 研究所のほか、メトロポリタンサウス TAFE 研究所の合併により2013年7月1日に TAFE クイーンズランドブリスベンが設立され、現在9つのキャンパスがある。

その他の地区にも特徴あるキャンパスがある。たとえばイーストコースト地区ではゴルフ・サーフィンなどのスポーツ・フィットネス系を中心とした4つのキャンパスが開設され、スウェーデン人の学生が多く学んでいる。また、サウスウェスト地区で



TAFE Queensland South Bank Campus

は園芸や食肉加工のコースが開設され、ゴールドコースト地区の5つのキャンパスには造船・エンジニアリング科が設けられて大学とも連携している。さらにノース地区ではケアンズ、タウンズヒル、グレートバリアリーフが近いことから、観光・ホスピタリティ・海洋学科が開設されている。

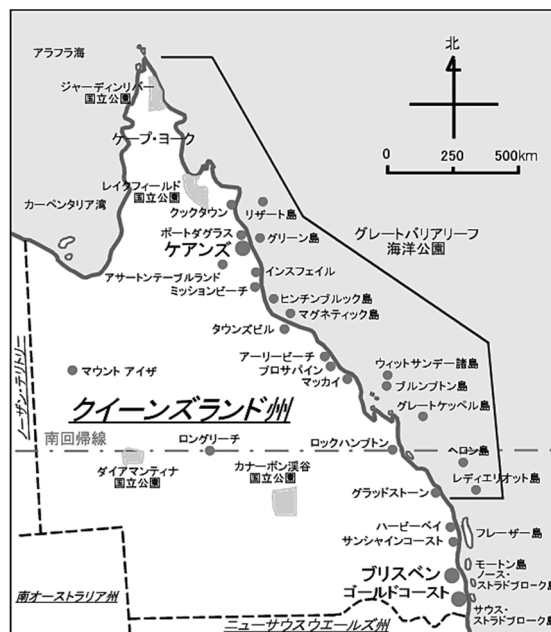
TAFE Queensland South Bank Campus の運営方針は、「新しいアイデアを持ち寄って、新しい価値を創る。持続可能なもので社会に還元する」である。

もともと TAFE は第一次世界大戦から復員した軍人の再就職を支援するために建てられた学校から発展した。現在では若年層を中心とする多くの人々が「手に職をつける」ために学んでいる。(注1)

職業訓練専門学校というと、東京都立職業能力開発センターのような形態を想像するが、TAFE Queensland South Bank Campus の規模はずっと大きく、全体で12万2,000人の生徒がおり、海外からの留学生も4,000人受け入れている。留学生が多い国としては、公的資格系統は韓国、民間資格系統はブラジルとなっており、それらの国々を始め世界各国と連携している。ハローワークで求職登録をしている失業者のみに入校を認める日本の制度とは大きく異なる。また TAFE の生徒が海外で学ぶプログラムもあり、たとえば東京でファッションを学ぶプログラムがある。

費用は誰が負担するのだろうか。質問したところ、ハイスクール卒(12年生)の場合、大卒者に比べて就職率が低いため、州政府が最初の1年間は学費を負担している。また専門職人数が足りないと州政府が判断した領域については「アプレンティスシップ(=徒弟制度)」を守るため、州政府が費用を負担している。これに関連して、現場で実習するプログラムでは、雇用主が費用の一部をカバーするケースもある。州政府と雇用主が協力して次世代の専門職を養成しようという考えに立っている。

ハイスクール卒で TAFE に進学する割合は60%にも上り、TAFE 卒業後大学に進学する者も多い。看護師のコースが最多で、ビジネスコースでも50%位になる。逆に大学



クイーンランド州の地図 (図1)



TAFE 国際業務課マネージャー
Caroline Lewis 氏 (左)

から TAFE の看護師のコースに派遣されるケースもあり、TAFE が職業訓練制度においていかに定着し信頼されているかがわかる。

日本の専門学校において途中退学者が少ないのは悩みの種である。TAFE でも例外ではなく、IT コースでは 20% 程度の生徒がドロップアウトしている。しかし、何らかの事情により国家資格が取れなかった場合でも、TAFE を卒業したことで評価される。さらに TAFE で単元修了後に認定証がもらえるので、一部修了者でも、そのプログラムが継続している限り、後に再入校して続きから学ぶことができる。

このようにクイーンズランド州での TAFE は、職業訓練制度において大きな役割を担っている。その一方で、同州には民間の専門学校も多く存在しており、双方はライバル関係にあるが、美容師やエンジニア養成コースでは民間と協力している。

3 教育環境

説明を受けた後、Information and Communication Technology（情報通信プログラム）の教室を視察した。ここでは①Web サイトとデータベースの作成 ②ネットワーキング ③サイバーセキュリティ ④Web デザイン の教室があり、それぞれ講師がアドバイスしながら、学生がコンピュータに向かって自分の課題に取り組んでいた。25 人から 30 人の教室につき 1 人の講師が標準だが、特別なニーズがある場合は講師がもう 1 人付くこともある。

IT 関係は人気があり、学生は原則 17 歳～25 歳が中心で最高齢は 63 歳である。特例であるが、保護者の了解のもと 15 歳のハイスクール生を入校させたこともあるようだ。



Information and Communication
Technology 教室



同教室（Web デザイン）

4 日本が学ぶべき点

オーストラリアと日本とは教育制度が異なり、社会・文化も相当違うので同一に論じることはできないが、今後の我が国にとって参考になる点は多い。

一つはオーストラリアでは「専門技術者」が尊敬され、比較的高収入である点である。シドニー郊外の英国国教会系の一貫教育名門校 Barker College で、校舎の建築費・修繕費がとても高いという話を聞いた。それは職人・専門技術に対する社会の評価が

高いことを意味する。同校の進路相談室では、書類棚にシドニー大学などの名門大学に交じり TAFE のパンフレットがあった。「職人・専門技術者」を敬い、わが子はその道に進むことを良しとする社会の奥行きがそこにある。

二つ目に、州政府が専門学校を大々的に運営し、職業選択の幅を広げている点である。日本では「大学全入」と言われ、必ずしもホワイトカラーの道を希望しない若者が、横並びで大学進学をしたものの、希望する道を見出せず、卒業後に専門学校に再入学するケースも多い。そのような学生・社会人を対象に、私の勤務校では「10 月入学」の課程を開設しているくらいである。その点オーストラリアでは、TAFE が若者の進路を広げる役割を果たしている。

三つ目に、海外からの入国者を TAFE が受け入れ、何らかの専門職の資格を与えて生活を保証している点である。ゴールドコーストで訪問した Scribblers Southport Kindergarten（幼稚園）で働く 2 人の日本人保育者に話を聞いたところ、最初は短期間のワーキングホリデーで入国し、定住後にゴールドコーストの TAFE で保育者の資格を取得したということだった。

日本でも、外国人の定住を増やしてゆく実質的な移民受け入れ政策に舵を切ったが、専門職の資格を持てるようにして、社会で尊敬される存在になることが彼らの生活を安定させ、彼らを日本社会に定着させることにつながると思う。

5 おわりに

「アプレンティスシップ（＝徒弟制度）」について補足したい。コモンウェルスの母国である英国に同様の制度がある。…「英国では同制度が生産性を高め、個人の生涯所得を引き上げ、また財政的にも利益になるとして、年間 50 万人前後が新たに参加しており、2017 年から雇用主に負担金制度を導入、2019 年度には年間 30 億ポンドの財源を確保するという。」（注 2）

日本でも専門職従事者は社会の中で「縁の下力持ち」的な役割を果たしている。しかし、一人前になるまで修業期間が長い割に、社会で応分の評価を得ているだろうか。日本においても TAFE のような職業専門学校を整備したならば、彼らをもっと社会で尊敬される地位を獲得することにつながるのではないだ



TAFE 構内の学生サービスセンター



TAFE の紹介映像（一部）

ろうか。

その際、オーストラリアの各州政府と比較して財政基盤が弱い都道府県が主体になることが困難であれば、国が既存の私立専門学校と連携して「日本型 TAFE」の可能性を追求することも考えられる。現在、企業と連携して最新の技術・技能を身に付けることのできる「職業実践専門課程」の制度があるが、国による更なる予算措置により、充実させることを期待したい。

参考文献

(全体を通して)：「TAFE Queensland South Bank campus」ホームページ

<https://tafeqlid.edu.au/home.html> (情報取得 2019 年 9 月 26 日)

(注 1)：「フィールド・アイ オーストラリアから ③オーストラリアの職業教育」

(日本労働研究雑誌 第 550 巻 2006 年 5 月) 独立行政法人労働政策研究・研修機構 (同機構ホームページ・情報取得 2019 年 9 月 22 日)

(注 2)：「アプレンティスシップ拡充に向け負担金制度を導入」(海外労働情報 2016 年 2 月イギリス) 独立行政法人労働政策研究・研修機構 (同機構ホームページ・情報取得 2019 年 9 月 5 日)

(図 1)：「オーストラリア地図 クイーンランド州」オーストラリア旅行の写真と観光情報 http://australiaing.zening.info/map/queensland_map.htm
(情報取得 2019 年 10 月 5 日)